

2008 年度

科目名 演習Ⅰ	対象学科・学年 文学部日文3回生	担当者 横田 隆志
授業テーマ 文学研究の方法を学ぶ		
授業の概要と目標 中世文学研究における問題設定の仕方や研究方法について学びます。		
評価方法 課題に取り組む姿勢（50％）・レポート（50％）		
テキスト 方丈記（岩波文庫）	著者 鴨長明作 市古貞次編	出版社 岩波書店
参考書 授業のなかで適宜紹介します。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 〈前期〉 1・2回生の専門教科で学んだ基礎的な解釈力を確認し、さらに磨きをかけるために、『方丈記』を題材として輪読を行います。輪読担当者は、分担部分の本文校訂・語釈・現代語訳の作業を行い、資料を作成した上で発表します。またそれらの作業や発表を通して、自分なりの問題意識を掘り起こし、前期末にレポートを提出してもらいます。 第1回 『方丈記』イントロダクション1……鴨長明という人物と『方丈記』 第2回 『方丈記』イントロダクション2……『方丈記』を読む「技術」について 第3回 『方丈記』イントロダクション3……『方丈記』の享受史および研究史 第4回 『方丈記』輪読1 第5回 『方丈記』輪読2 第6回 『方丈記』輪読3 第7回 『方丈記』輪読4 第8回 『方丈記』輪読5 第9回 『方丈記』輪読6 第10回 『方丈記』輪読7 第11回 『方丈記』輪読8 第12回 『方丈記』輪読9 第13回 『方丈記』輪読10 第14回 『方丈記』輪読11 第15回 まとめ 〈後期〉 中世文学（お伽草子・語り物・謡曲・軍記・説話・和歌など）を題材として、各自がそれぞれに考えた問題意識をもとに研究発表を行います。発表手順は次のとおりです。 (A) 夏休み明けに各自が考えた研究テーマを400字以内で提出する。 (B) 発表資料はB4版で3枚以内を原則とする。 (C) 発表時間は30分以内を原則とする。 (D) 発表者以外の者も演習に積極的に参加するために、一つの発表が終わった後、その発表に対する評価を書いて提出し、それを題材に質疑応答する。 具体的には次の予定で授業を進めます。 第16～18回 ガイダンス……論文を書くとはどういうことか 第19～29回 学生による発表 第30回 まとめ ※後期末には各自の発表をもとにして、研究テーマをまとめたレポートを提出してもらいます。 ※上記の発表スケジュールは受講者数によって若干変更する可能性があります。		